

MANAGEMENT / GOVERNANCE

大学運営／ガバナンス

安心できる学びの場の実現と 創造した価値の社会への発信

社会から信頼される大学であり続けるため、評価と点検を繰り返しながら、ガバナンス体制の強化に取り組んでいます。リスクが多様化していく中でも、すべての学生が安心して質の高い教育を受けられ、教職員に活気が溢れる、そんなキャンパスの実現に向けて、適正かつ透明性の高い大学運営を目指し、健全な大学づくりを推進していきます。また、本学の様々な成果を社会に広く情報発信し、大学のブランド力の強化に努めていきます。

今までの取組

✓ 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応

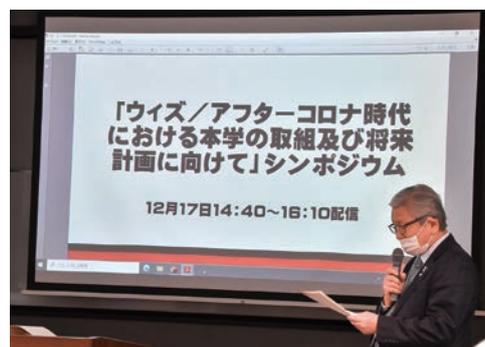
国立大学法人における経営の透明性を高め、その機能を強化し、自らの経営を律することを目的として、国立大学協会、文部科学省、内閣府により、基本原則となる規範「国立大学法人ガバナンス・コード」が策定されました。本学は、このガバナンス・コードを基本原則として、本学の特性を踏まえた取組を実施し、経営機能を高め、強靱なガバナンス体制を構築しています。また、経営の透明性を向上させ、社会への説明責任を果たすため、毎年度、その適合状況に関する報告書を本学ウェブサイトにて公表しています。なお、2020年度における本学のガバナンス・コードへの適応状況の確認プロセスは、全国の国立大学における優良事例として、文部科学省ウェブサイトにて紹介されました。

実績

✓ コロナ禍における安全対策と危機管理

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、2020年1月に「新型コロナウイルス感染症危機対策本部」を設置し、感染症への対応に係る方針等を検討してきました。同年5月には、学生・教職員の命と健康を守ることを使命として、「新型コロナウイルス感染症対策憲章」等の対策方針の策定、「緊急学生経済支援プラン」に基づく学生支援等を実施しました。

2021年度には、これまでの経験や社会における感染症対策の恒常化等の状況を踏まえて、危機管理体制を見直しつつ継続して対応を行い、学生・教職員の努力と協力のもと、2022年12月現在に至るまで、学内におけるクラスターの発生等大規模な感染を防ぐことができました。



2020年度から2021年度にかけて全6回開催した「ウイズ/アフターコロナ」シンポジウム（写真は第1回の様子）

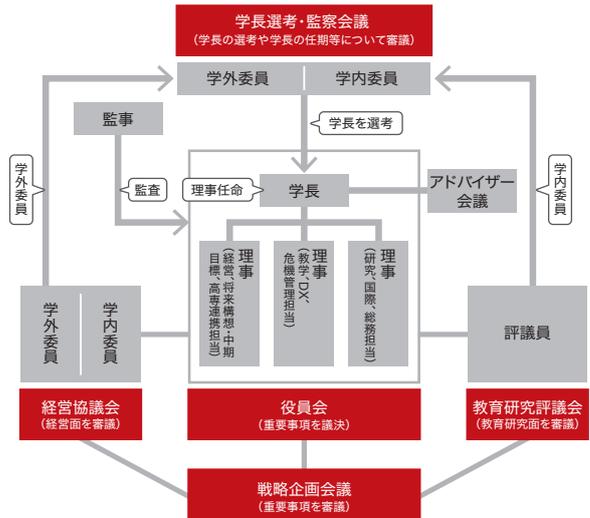
☑ ガバナンス体制(意思決定体制)

学長のリーダーシップとガバナンス機能の強化により、大学の資源を最大限に活かすとともに、大学を取り巻く状況や社会的要請の変化に対応すべく、効率的かつ迅速な意思決定システムを構築しています。

※アドバイザー会議は、学長の諮問に応じて学外有識者から助言や提言等を得ることを目的に設置している会議です。会議で得られた貴重な意見等は、大学運営へ反映し、さらなる適正化・活性化につながっています。

※2022年度から、学長選考会議は学長選考・監察会議へ名称変更しました。

■ガバナンス体制図

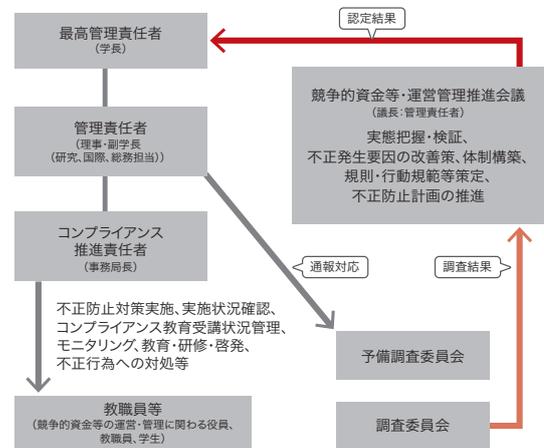


☑ 研究費不正使用への対応

国から本学に交付される予算(運営費交付金)、補助金及び委託費(受託研究・受託事業費等)は、税金や国債の発行によって国が集めたもので、いわば国民から負託を受けた公的研究費です。

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成26年2月18日文科科学大臣決定)に基づき、関係規程を整備し、管理運営体制を明確化するとともに、関係法令等の遵守、不正使用及び不正防止について理解を深めるため、教職員・学生を対象とした「公的研究費の適正な取扱いに関するコンプライアンス教育」を毎年度実施しています。

■研究費不正防止体制



☑ 積極的な情報発信

社会に対し開かれた大学として、SNS、FMラジオ、プレスリリース、刊行物等の様々な媒体を活用し、情報発信を積極的に行っています。特に、広報戦略本部では毎月1回程度、定例記者会見を開催しており、大学のプレゼンス向上と教育研究成果等の見える化に取り組んでいます。

2021年度からは、オンライン記者会見の実施やYouTubeでの会見動画配信など新たな発信方法を導入し、より多くの方々に本学の諸活動を知ってもらえる機会の拡大に努めています。



将来展望

さらなる特徴の創造、大学のブランド力の強化

引き続き、ガバナンス・コードへの対応に取り組むとともに、年に一度行われるアドバイザー会議において、外部の視点から、豊橋技術科学大学のあるべき姿についてご意見をいただき、大学運営に取り入れていきます。

本学は地方の工系単科大学であり、規模は小さいですが、半導体の設計から製作、評価までを一貫して行うことができるエレクトロニクス先端融合研究所(EIIRIS)を有している等、インパクトのある大学として、企業や技術のプロなど各方面から高評価をいただいています。今後は、様々な広報媒体をより効果的に活用し、一般の方への知名度の向上を図るとともに、さらなる特徴の創造、大学のブランド力の強化に取り組んでまいります。